

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

平成30年12月11日（火）

2 確認箇所

- ・既設多核種除去設備
- ・フランジタンク解体部材一時保管施設④

3 確認項目

- (1) 既設多核種除去設備における漏えい事象の状況
- (2) フランジタンク解体部材一時保管施設④の現況

4 確認結果の概要

- (1) 既設多核種除去設備における漏えい事象の対応状況について

昨日(12月10日)、既設多核種除去設備A系のクロスフローフィルター入口側にある絞り弁のグランド部から水が漏えいする事象が発生した。東京電力によると、B系及びC系においても漏えいが確認され、それぞれ弁を増締めすることにより滴下は停止したとのことである。また、漏えい水は、ろ過水(放射性物質を含まない水)とのことである。

本日、現場の状況を確認した結果は以下のとおりである。

- ・A系、B系、C系全ての弁まわりにビニール養生され、袋内のウェスは乾いており、新たな滴下は認められなかった。(写真1)
- ・東京電力によると、漏えいが発生した弁は運転開始から未点検のため、グランド部の緩みが発生したと考えており、養生を実施して継続監視を行い、必要に応じて増締めの実施を検討するとのことである。



(写真1-1)

弁

ビニール養生



(写真1-2)

ウェス

※ 代表してA系の写真を掲載

- (2) フランジタンク解体部材一時保管施設④の現況について
前回(平成30年11月29日)に引き続き、今回はフランジタンク解体部材一時保管施設④における仮置き状況を確認した。
- ・当該施設は、鉄骨に白色のテントを被せたものでできており、目視した限り、テントに破れはなく、雨水が流入するおそれは認められなかった。(写真2)
 - ・テント内には、フランジタンク解体工事時に発生したタンク解体片が仮置きされていた。(写真3)
 - ・目視した限り、仮置きできるスペースは十分あり、廃棄物等が飛散、流出している状況は認められなかった。



(写真 2 - 1)



(写真 2 - 2)



(写真 3)

- 5 プラント関連パラメータ等の確認
各パラメータについて、異常な値は確認されなかった。